

研 究 分 野	水産増殖	部 名	漁業開発部
研 究 課 題 名	サケ・マス増殖管理推進事業 サクラマス		
予 算 区 分	水産業振興費		
試験研究実施年度・研究期間	H. 6 ～ H. 19		
担 当	相坂 幸二		
協 力 ・ 分 担 関 係	内水研		

〈目的〉

サクラマス資源増大の方策策定のための基礎資料を得る。サクラマス人工種苗放流後の海での移動回遊、回帰率等の調査から放流効果を算出し、栽培漁業化の可能性を探る。

〈試験研究方法〉

1) 市場調査

調査期間：サクラマスの漁期を考慮し、平成17年1月から6月を調査期間とし取りまとめた。

調査地点：深浦漁協、大戸瀬漁協、大畑漁協、白糠漁協

調査方法：現地漁協に委託し、漁獲されたサクラマスの標識の有無、種類を野帳に記入し、漁期終了後、回収したデータの取りまとめを行なった。

2) 幼魚混獲調査

調査期間：サクラマス幼魚が沿岸の定置網等で多く混獲される3月から6月を調査期間とした。

調査地点：深浦町（旧岩崎村黒崎、大戸瀬）、外ヶ浜町（旧三厩村竜飛、平館）、佐井村牛滝、むつ市関根浜、東通村尻労 計 7地点

調査方法：現地調査員（漁業者、漁協職員）にサクラマス幼魚が混獲された際、サンプリングと採捕月日、漁法の記録を依頼した。漁期終了後、回収した幼魚の測定及びデータの取りまとめを行なった。

〈結果の概要・要約〉

1) 市場調査

深浦漁協では、平成17年1月6日から5月20日までに2,174尾を調査し、うち45尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚の割合は2.7%であった。脂鰭カット標識魚が29尾で約65%を占めていた。

大戸瀬漁協では、平成17年1月4日から3月14日までに2,088尾を調査し、うち15尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚の割合は0.72%であった。脂鰭カットが8尾、左胸鰭カットが4尾、右胸鰭カットが3尾となっていた。

大畑漁協では、平成17年1月5日から6月29日までに7,602尾を調査し、うち302尾の鰭カット標識魚を確認した。標識魚の割合は3.97%であった。脂鰭カットが123尾、脂鰭+右腹鰭カットが120尾と多くなっている。

白糠漁協では、平成17年1月14日から3月22日までに4,875尾を調査し、うち31尾に鰭カット標識魚を確認した。標識魚の割合は0.64%であった。右胸鰭カットが11尾、左胸鰭カットが5尾、左腹鰭カットが4尾、右腹鰭カット4尾となっていた。

2) 幼魚混獲調査

定置網等で混獲された幼魚のサンプルは308尾で、うち13尾が標識魚であった。

標識の種類は脂鰭カットのみの標識魚が2尾、脂鰭＋左腹鰭カットが1尾、左腹鰭カットが8尾、右腹鰭カットが1尾であった。

リボntag標識魚は山形県で放流されたものが2尾で、山形県とさけます管理センターが共同で行なった試験で放流された2尾であった。

胃内容物を調査した結果、測定できた115尾のうち摂餌生物は端脚類が47%、イカナゴや魚類稚仔が43%、アミ類が10%であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表 標識魚の採捕状況

調査地点	採捕尾数	標識魚尾数	(%)	主な標識の種類
深浦町黒崎	16	2	12.5	リボntag(山形)1・左腹1
〃 大戸瀬	3	0	0	
外ヶ浜町平館	1	0	0	
〃 竜飛	7	1	14.3	リボntag(山形) 1
佐井村牛滝	2	0	0	
むつ市関根浜	30	2	6.7	左腹1尾・脂＋左腹1尾
東通村尻労	249	8	3.2	脂2・左腹5・右腹1
計	308	13	4.2	

表 胃内容物の測定結果

調査地点	摂餌尾数	摂餌生物の種類・尾数
深浦町黒崎	8	イカナゴ他魚類8
〃 大戸瀬	0	
外ヶ浜町平館	0	
〃 竜飛	2	イカナゴ他魚類2
佐井村牛滝	1	イカナゴ1
むつ市関根浜	8	イカナゴ他魚類7・アミ類1
東通村尻労	97	端脚類54・イカナゴ他魚類31アミ類12
計	116	

〈今後の課題〉

本県放流魚の明確な標識方法を再検討し、移動回遊、回帰率を把握する。

〈次年度の具体的計画〉

同様の調査内容で行う。

〈結果の発表・活用状況〉

さけ・ます増殖管理推進事業調査報告書に報告する。